

# 令和7年度 介護の日 作文コンクール 作品集



あなたを護る。明日を創る。

## はじめに

十一月十一日は、「介護の日」です。「介護の日」は、介護についての理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護に取り組む家族を支援するとともに、これらの方々を取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する日とされております。

この趣旨を踏まえ、県と茨城県老人福祉施設協議会との共催による「介護の日」作文コンクールを実施し、介護を必要とする人や介護の仕事をしている人だけでなく、県民誰もが介護について考えるきっかけとしています。

今年度も、関係する皆様の御協力により、心温まる多数の作品をご応募いただき、第十七回目となるコンクールを開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。

一般の部と学生の部を合わせて百十一作品の応募があり、茨城県議会議長賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県社会福祉協議会長賞、茨城県理学療法士会長賞、茨城県介護福祉士会長賞の六つの賞において、各賞二作品、合計十二作品を選定いたしました。

この度、受賞作品を作品集にまとめましたので、御紹介いたします。多くの皆様に御覧いただくことで、介護についての理解と認識を深める一助となれば幸いです。

## 目 次

尾畑 知和「返事は一つじゃない」……………	1
小森 弥生「介護から得た希望の光」……………	2
スナル マンラズ	
「人を支える喜びと介護福祉士への道」……………	3
塩田 可愛「介護に携わって思う事」……………	4
有年 にこ「私のひいおばあちゃん」……………	5
小豆畑 俐音「私の原動力」……………	6
宇佐美 心結「暮らしの中の介護」……………	7
早乙女 洋子「人生の道しるべ」……………	8
諸岡 旺真「介護のそばで育って」……………	9
阿内 勉「我が家は介護元年」……………	10
佐藤 佳菜子「何のために」……………	11
宇津野 美佐子	
「妻としてケアマネとして」……………	12
茨城県老人福祉施設協議会の取り組み……………	13
茨城県社会福祉協議会の取り組み……………	14
茨城県理学療法士の取り組み……………	15
茨城県介護福祉士の取り組み……………	16



本冊子で使用している写真は一般社団法人茨城県老人福祉施設協議会の会員施設に勤務する職員の皆さんです。  
高齢者施設で働く皆さんの写真も併せてご覧ください。





## 茨城県知事賞

# 返事は一つじゃない

土浦市立土浦第六中学校

尾畑 知和

一年前に他界した祖父は認知症だった。ある日、同じようなことを何回も繰り返して言うようになってしまった。心配した両親が病院に連れて行ったところ、認知症と診断された。

「認知症」その言葉は知っていたが、自分の身近にあるものとは思わず、驚いた。祖父との接し方が分からなくなった時、母が「同じことを言っても否定しないで、肯定だけしてあげて。」とおしえてくれた。

接し方は理解することができたけれども、以前と比べ表情は少なく、肯定的な返事しかしていないため会話は弾まなくなっていた。

寂しく、前のような祖父は戻ってこないんだと残念に思っていた。

しかし、久々に私の家で一緒に暮らしている犬と会った時、犬を撫でながら「この子は鼻がしつとりしていて健康だ。」ととびきりの笑顔を見せてくれた。その笑顔は認知症になる前と何一つ変わっていないものだった。

なんだ、おじいちゃんは何も変わっていないじゃないか。表情は少なくなった、会話は弾まなくなつた、そのことは事実だ。でも、何が好きで、何が嫌い、嬉しいこと、悲しいこと、楽しいこと、感情は変わっていない。そうなると私がかくさんの肯定的な感情をもって接すればよいと気づけた。

例えば、「今何歳だ。」と何回も聞かれた時最初はそのままの年齢で答えて、次の時は、「何歳に見える?」と質問を質問で返して見ることで返事を変えることで会話が弾むようになっていった。

同じことを何回も話されたって、前に感じたことから新しい視点で話を聞けば、一人からだっていくつもの返事をつくりだすことができる。

私にとって介護というのは、祖父との中でしか分らないけれど、相手に寄り添い、その人らしく過ごしていけるように支えることが大切だと感じた。



## 茨城県知事賞

# 介護から得た希望の光

介護老人保健施設かすみがうら

小森 弥生

「もつと患者さんの生活に寄り添う看護がしたい」という思いから、介護の現場に足を踏み入れた数年前。医療から少し離れた現場に踏み込むことは、看護師と言う仕事から逃げたのではないかと自信をなくしていました。そんな私を救ってくれたのは、施設で生活している利用者様でした。

介護の現場では、利用者様の疾患や症状だけでなく、過去・現在・未来の生活に向けたケアが必要になります。どんな暮らしをしてきて、今必要な事、今後どうしていきたいかを考えるトータル的なケアです。要介護者は加齢や病気により、様々な喪失感を感じるようになります。心身機能の低下や、退職、死別、役割の変化などの喪失体験は、要介護者の心理状態に大きな影響を与え、不安、孤独感を感じるようになります。介護とは、日常生活を助けることだけでなく、そうした様々な喪失感から心を守るのだと思います。

介護をしている中で、ある利用者様が、「色々出来なくなった事も多いけれど、車椅子はこんなにも上手になったの。私もまだまだやれるわね。」と、目を輝かせてお話ししてくれました。この言葉は、介護現場で働く自信を無くしかけていた私の、希望の光となりました。介護はする側、される側の上下関係を生むものではなく、互いに成長する糧となるものだと思えました。

現在の日本において、介護という言葉が持つイメージはどんなものでしょう。「私もまだまだやれる」というプラスのイメージを持たなければ、もつと素晴らしい介護が広がっていくでしょう。その為には、互いに思いやりや自尊心を持ち、介護を支える環境が必要です。介護は生活の一部です。ぜひ身の回りの介護について会話が弾む、そんな毎日があふれるよう、今日も私は、「まだまだやれる」と、笑顔で仕事に向かいます。





## 茨城県議会議長賞

# 人を支える喜びと

## 介護福祉士への道

いばらき中央福祉専門学校

スナル マンラズ

私はネパールから来た留学生です。現在は介護福祉士養成校に通っています。私は子どもの頃、祖母に面倒を見てもらいながら育ちました。祖母のいろいろな人生経験を聞くことが多く、私は祖母のことが大好きでした。

日本語学校に通っていたとき、先生や先輩方から介護の仕事について教えていただきました。私はもともと高齢者と接するのが好きだったため、「自分に合った仕事かもしれない」と思い、介護に興味を持ち、専門学校への進学を決めました。

しかし、バイト先で、ある外国人の先輩から心ない言葉をかけられました。「こんな汚い仕事をするために日本に来たの？」などの、毎日のようにかかわれ、傷つきました。自分は違う道を選んでしまったと感じて、何度も涙を流し辞めたくなったこともありました。

そんな中、一年生のときに初めての実習で、大きな転機がありました。利用者様の排泄介助を行っていたときのことです。車いすに座っていた

だき、足元を整えていたとき、私の頭をやさしくなでながら、「あなた、優しいですね。よくできましたよ。日本に来てくれてありがとうね」と声をかけてくださいました。その言葉を聞いて私は思わず涙が出そうになりました。この言葉は、私にとって一生の宝物です。その利用者様から「日本に来てくれてありがとう」と声をかけていただいたとき介護は体の支援だけでなく、心を支える仕事だと強く感じました。また、利用者様の笑顔や言葉が自分のやりがいになり、信頼関係は日々丁寧な関わりから生まれることに気づきました。この経験をを通して、人を支えることの尊さ、介護の魅力を学びました。

日本語や介護の勉強の難しさ、文化の違いなど、まだ慣れていないことはたくさんありますが、人の人生を支えることは大きな喜び感じた私、この喜びを力に変えて、将来介護福祉士になるために、一生懸命勉強に励んでいきたいと思っています。

## 茨城県議会議長賞

訪問介護員

# 介護に携わって思う事

塩田 可愛

訪問介護に就いて早十三年が経ちました。近頃よく、介護職を始めた頃の事を思い出します。人のお世話をするのがあまり得意でない私が、気付いたらこんなにも長い年月、介護の仕事に携わっていたのだと思う。思い起こせば初めは、大変な事の方が多かった気がします。オムツ交換や入浴介助、掃除、調理、洗濯、買い物を時間内でこなさないといけない事、そして利用者様とのコミュニケーションは十三年経った今でも得意です！とは言えません。何度辞めようかと考えた事もありました。でも、今まで続けてきて本当に良かったなと心から思います。それは、利用者様からの言葉が励みになっているからです。「あなたたちが買い物を行ってくれるから一週間生活する事が出来るし、毎日安心して暮らす事ができる。その人の生活を支えているのだから、すごい仕事をしているのよ。」自分のやっている仕事に改めて誇りを感じました。人から得る物というの

が沢山ある介護職に就いて私は本当に良かったなと思いました。そして、人の気持ちに寄り添える人に成長していける様、精進して参りたいと思います。私は昨年、夫を癌で亡くしました。一年半という短い期間でしたが、夫の介護にも携わりました。今となって考えれば夫も私も一生懸命に頑張った一年半でした。でも当時の私は、そんな事を考える余裕もなく毎日疲弊していました。人を介護することの大変さを家族の立場の視点から経験しました。デイサービス利用時の送迎車の中で夫は職員に、「家内と結婚出来てよかった。」入院してからほぼ毎日病院へ行き、夕飯を食べさせに行く毎日を送っていました。ある時夫から、「明日も明後日も来てほしい。」と言われ、そんな風に思ってもらえた事に私は夫に今でも心から感謝しています。介護は決して楽なことではないけれど、携わることができて良かったなと思います。



## 茨城県老人福祉施設協議会長賞

筑西市立下館中学校

# 私のひいおばあちゃん

有年 ニコ

私の九十三才のひいおばあちゃんは、高齢者用の施設で生活しています。ひいおばあちゃんは耳が遠いので、話しかけるときは耳元で大きな声で話してあげないと聞こえません。

たまに歯が痛いと言うときがあるので、そのようなときは食べ物をやわらかくしたり細かく切ったりしなければ食べられません。いろいろと大変なことがいっぱいあるので、介護をする職員さんたちはいやにならないのかなと心配になります。

でも、私がひいおばあちゃんに会いに行くと、施設の職員さんはいつも明るく出迎えてくれます。そして、ひいおばあちゃんに「会いに来てくれてよかったね」や「うれしいね」などと優しく笑顔で話しかけているのです。

さらには私たちにまで「また、いつでもいらっしゃってくださいね」と言ってくれました。

私は、その言葉を聞いて、とてもうれしくなり

ました。ひいおばあちゃんは、私たちが会いに行くとすごく喜んでくれます。ひいおばあちゃんが喜んでくれると、私もうれしくなります。

私はひいおばあちゃんに、段差があるときは「段差があるから気を付けてね」と教えてあげたり、坂道のときに手を貸してあげたり、家族で食事をするときは私がとなりに座って、ひいおばあちゃんの耳元でみんなが言っていることを代わりに伝えてあげたりしています。

「介護」と聞くと、まだ私たち子どもには関係ないと思うかもしれないけれど、私は、ひいおばあちゃんに会いに行ったり、手を引いてあげたり、聞こえるように話しかけてあげるだけでも小さな介護だと思います。これまでに以上にひいおばあちゃんのことを支えてあげたいです。





## 茨城県老人福祉施設協議会長賞

介護職

### 私の原動力

小豆畑 俐音

私が介護福祉士になったきっかけは、祖母の存在がとて大きく、亡くなった祖母に今でも感謝しています。

小学校二年生の時、祖父が亡くなり、それからというもの気落ちした祖母は、段々と元気がなくなっていました。元々心臓が弱かったこともあり、入退院を繰り返すようになりました。

その後、アルツハイマー型認知症と診断され、一人で暮らすには心配なことから同居することになりました。始めは、大きな変化もなく暮らしていましたが、ある日を境に物を隠されたとあたりを探し回る姿や同じ言葉を繰り返したりと当時小学生の私には理解できず不安に思うばかりでした。

そのような時に、祖母は家の中で転倒し、圧迫骨折により寝たきりとなってしまったのです。それからの数年はとて大変で、母がご飯を食べさせたりオムツを替えたりする姿を私はただ見ていただけでした。

そのうち、私も「ばあちゃんに何かしてあげたい」と思うようになり、最初は、スプーンでご飯を食べさせてあげました。祖母がとても嬉しそうに「ありがとうね」と言ってくれました。

そこから私はオムツ替えや着替え、お風呂に入る手伝いをするようにもなりました。その一つ一つに、祖母が本当に嬉しそうな顔で「ありがとうね」と言ってくれたのです。その笑顔と声は、今も鮮明に心に残っています。

私も元気をもらい介護士を本気で目指そうと思うようになりました。

思いかえせば、これまで資格もない母がしていた食事介助や排泄介助は、介護士としての仕事でした。そして今、私はその職についています。

祖母から頂いた「ありがとう」という宝物を胸に、今度は私が、介護を必要とする方々に「ありがとう」と言っていただけのように、寄り添っていきたくて考えています。



## 茨城県社会福祉協議会長賞

# 暮らしの中の介護

古河第二高等学校

宇佐美 心結

私たちの暮らす社会は、超高齢社会であり介護人材が足りていない状況にあります。古河二高で福祉を学ぶうちに、介護がただの世話ではなく、人の尊厳、人権を守り、生活の質を向上させるためのことだと気づきました。

介護は、体が不自由になったり、認知症などで日常生活が困難になった人が、自分らしい生活を送れるように手助けをすることです。私が小学一年生の時、祖母が認知症と診断されました。物忘れが増え、何事においても失敗の回数が多くなつていき、当時の私は祖母の状況が理解できず、変わっていったら祖母をみて、恐怖を覚え、祖母と話す機会が減ってしまいました。最初は家族で介護をしていましたが、次第に大変になり、介護サービスを利用するようになりました。祖母が施設に入居してから数カ月が経った頃、祖母に会いに行った時に、職員の方々が祖母に笑顔で優しく接している姿をみて、とても感動しました。祖母も安心したような穏やかな表情を浮かべていて

とても嬉しかったです。私はそこから、介護に興味を湧き、福祉の勉強に励んでいます。実際に施設に行つて実習をして、利用者の方と触れ合ったときに、同じ施設に入居していても、それぞれ利用者の方の状態や様子は全く違い、一人ひとりに合わせた介護が必要なのだと感じました。また、私が施設で見た光景は、祖母のときと全く同じで、笑顔で優しく接し、利用者の方が穏やかな表情をしていました。私はその光景に心を打たれ、とても印象深かったです。それと同時に、利用者の方一人ひとりに対する介護は違つても、利用者の方を思いやる気持ちは変わらないのだと気づきました。介護の日について作文を書いて、介護への関心がさらに高まり、介護に関わる全ての人への感謝と尊敬の気持ちを持つことがとても大切だと感じました。私はこれから、福祉の勉強をし、様々な人と関わる中で、介護についてもっと深く考え、介護士となり社会を支えたいです。

## 茨城県社会福祉協議会長賞

杏花訪問介護事業所

# 人生の道しるべ

早乙女 洋子

「あなたが来てくれるのをいつも待っているのよ」と、言われて、「やっと心を通い合わせることができた」と、思われる瞬間に目頭が熱くなり、胸がいっぱいになった。

此処は、身の回りのことは自分でできる自立した方が入所するケアハウスで、Sさん（九十代女性）が入所となった時のことです。

高齢なので安全の為、ヘルパーが身体介護で入浴介助と掃除を支援することになった。初訪問の時、開口一番、「政府で決められたからと入れられてしまった」と、真剣な表情で言われた。その衝撃的な言葉に私は、一瞬返す言葉がなかった。Sさんは入所を納得されない様子で「家に帰して欲しい、帰りたい」と、訴えるように言われた。

私は心を落ち着かせてから、この苑には九十年代後の女性入居者がたくさんいること、皆様、それぞれの事情で入所されていて、Sさんが入所されるのを楽しみに待っていたことを話して、「一緒に仲良くやっていきましょう」と、精一杯心を

こめて伝えた。目を見て両手を握ると、しっかりと握り返してくれ頷いてくれたので心が通じたと胸を撫で下ろした。それから、いつも明るい挨拶を心がけて交わし合ううちに少しだった笑顔がたくさん見られるようになってきた。

ヘルパーの仕事は何よりも心の支援を求められています。利用者と適切なコミュニケーションを図り、利用者の気持ちに寄り添った支援を行っていくことが最も大切です。必ず記録の確認をし共通の理解をして支援を行う。利用者一人一人に合わせた対応をすることは大変だが仲間と切磋琢磨して、より良い支援策を見つけ出し取り組んでいます。

しばらくするとSさんは、自然豊かな苑庭を見て歌を詠んだり、大正琴を聴かせてくれたり苑の生活に慣れ楽しんでくれるようになりました。利用者の姿はやがて私も行く道で毎日学ぶ事ばかりで役得だと思っています。利用者は人生の大先輩であり道しるべです。





## 茨城県理学療法士会長賞

# 介護のそばで育って

つくば市立学園の森義務教育学校

諸岡 旺真

ぼくのお兄ちゃんは、体が不自由です。自分の力で歩いたり、食事をしたりすることができません。お兄ちゃんは二歳のときに、重い脳の病気にかかってしまい、それが原因で今のような体の状態になったそうです。ぼくはそのころまだ生まれていなかったのですが、詳しいことは知りません。でも、物心ついたときには、すでにお兄ちゃんは車いすに乗っていて、お母さんがいつもそばで介護をしていました。

お母さんは、お兄ちゃんを学校や病院に連れて行ったり、食事やトイレ、入浴の手伝いをしたりしています。ぼくはそんな毎日の様子を見て育ったので、介護がある生活が当たり前のように感じています。小さいころは、お兄ちゃんが自分の意思で動けないことを「かわいそう」と思ったり、お母さんやお父さんがいつもお兄ちゃんの世話をしているのを見て、「うらやましい」と感じたりしたこともあります。

でも、中学生になった今、ぼくの考え方は少しずつ変わってきました。もし、もっと進んだ医療が受けられたら、お兄ちゃんも話したり、動いたり、遊んだり、スポーツをしたりできるようになるかもしれない。そんな希望を持つようになりました。もちろん、現実はそんなに簡単ではないこともわかっていきます。でも、ぼくの心が成長したのは、お母さんが毎日一生懸命に介護している姿を見てきたからだと思います。

これまでぼくは、ただ見ていただけでした。介護は大人がするものだと思っていたからです。でも、最近は、直接手伝うことだけが介護ではなく、介護している人を支えることも大切だと気づきました。ぼくにできることはまだ少ないかもしれないけれど、お母さんの負担を少しでも減らせるように、これからはぼくもできることを探して、力になっていきたいと思っています。



## 茨城県理学療法士会会長賞

# 我が家は介護元年

教員

阿内 勉

先日、義母が亡くなった。享年八十五歳。家事一切を一人で切り盛りする、典型的な昭和の女性であった。残された義父はこれまた典型的な昭和の男性で、仕事一辺倒、子育てから何から家庭内のことはすべて任せきりで生活してきた。お互いそういうものと思いながらの六十余年、互いを尊重しながら仲睦まじい夫婦であった。

ところが、「老いた父一人をどうするか問題」は突然やってきた。家を出て三十年近く経っている息子と娘。子どもから見れば「男一人でもしっかりやってくれ」「チンくらいできるでしょ」と励ますものの、当の本人は妻を失った落胆の思いが消えることもなく、辛い毎日が続く。そんな後ろ姿を見て、子どもや孫は介護について知恵を絞る、通院の手伝いや買い物、介護認定の問合せなどを交代しながら健気に支え合う。全てを頼っていた義母が亡くなってからというもの、戸惑いは義父、子ども達双方に広がったままである。

さて、ここまでは我が家のケースを述べたもの

だが、おそらく似たような家庭が多くあることは想像に難くない。現在の高校三年生の半数以上が一〇〇歳以上生きることが見込まれる時代である。子どもの視点で言えば、親の面倒も見たいが自分の家庭を優先せざるを得ない。だから、「一人では何かあったら心配」「施設に入ってくれば安心」一方で、親の視点からは「住み慣れた家を離れたくない」でも「話し相手もなく退屈な毎日」。娘夫婦である私たちは、今まで両親が健在であることをいいことに介護について深く考えることはなかった。しかし、今では、介護者の身体的、精神的負担を減らすにはどうしたらよいか、誰もが明るく長生きを喜べる長寿社会を実現するにはどうしたらよいかなどについて考える時間が増えた。親子双方にとって納得のいく介護とはどういうものかを模索しつつ、義父には余生を少しでも充実したものにしてもらいたいと強く願う。



## 茨城県介護福祉士会長賞

# 何のために

牛久第一中学校

佐藤 佳菜子

「なにことも楽しくね。」

祖父がよく私に言う決めゼリフでした。

大好きだった祖父が肺の病気で亡くなって三年が経とうとしています。会いに行く度に痩せていく身体、鼻に通った管、最後にはベッドから出てこなくなり、会いに行くと必ずしてくれたお見送りにも来なくなりました。

弱っていく祖父を見るのはとても怖くて、気にしないフリをしていたと今になっては思います。ヘルパーさんが様々なことをしてくれているのを見て、私もなにかしてあげたいと思いました。ですが、何をしたらいいのか、その頃の私にはとてもじゃないけどわからなくて何もしてあげられませんでした。

祖父が亡くなった日、急いで駆けつけて冷たくなった祖父に触れたとき一番に思ったことは後悔でした。今でも考えています。私は、何をしてあげられたでしょうか。

私はその時、介護は身近にあるということに

気づきました。そしてそれはみなさんも同じです。介護の仕事に就かないから。私の家族はみんな元気だから。私もそう思っていたけどそうではなく、私のようになにかしてあげたいと急に思ってもできなかったり、突然身の回りで介護が必要になるかもしれません。そのためのために介護を知る機会をもっと増やして社会全体で介護への認知を高めていく必要があると思います。そしてその小さな力になるために作文を書いています。超高齢社会である今、若い世代の私達が介護について学ぶことはとても大切です。そうすることで大切な人が困っているときに支えてあげることが出来るのだと思います。支えてあげたい人を支えてあげられないことほど辛いことは無いです。祖父がよく言っていたように「楽しく」生きるために。後悔しないために。大切な誰かのために。考えてみてください。あなたは何のために介護を学びますか？





## 茨城県介護福祉士会長賞

# 妻としてケアマネとして

シルバービレッジ  
居宅介護支援センター

宇津野 美佐子

夫が倒れて十二年目を迎えました。会社の休憩後、午後の仕事を開始しようと温かい休憩室から出た所で、意識消失し倒れている所を同僚の方に発見され、五八才の時に脳出血を発症しました。高次脳、半身マヒ、半盲と介護の必要な状態となり、退職も考えました。半年間の入院生活で、目に見えて回復していく様子が見られる中で、妻として受け入れられなかった、「私は誰？」という問いかけにも、名前も忘れられ「リハビリの先生」と答えてきました。一番下の子が大学三年で、これからの生活の事、お金の事といろいろな事が頭の中を駆け巡りました。

この様な状況でも、支援センターの仲間の協力もあり、今まで何とか続けてきました。

夫に対しても、介護福祉士、ケアマネの資格を有している妻として、他の人に頼らずに仕事を辞めて付いてあげたい自分と、冷静に外から見ている自分がいる。夫にはリハビリが必要で、一人で抱えこまずに、がんばらない介護で今日まで

やってきました。

ケアマネ資格を取得して二十年目、管理職を十三年、次の世代の管理者を育てるには、十年先を見据えなければならず、定年を前に、交代という大きな節目を迎え、現在は、一職員として働いています。「自分の居場所は自分で作る」「置かれた場所で花を咲かす」を心の支えに、誰もが居ここの良い職場にと日々過し、これからこの気持ちに変わりはなく、ケアマネとして走り続けて行きたいと考えています。

利用者家族が、その人らしく住み慣れた地域で生活が送れる様に、どんな障害をかかえた方でも、その一人一人が笑顔で心に花を咲かせられる様に、また、人生の先輩として、勉強させていだき、得られる事を吸収し、この先何年続けられるかわかりませんが、一日一日、目の前の利用者家族一人一人に向き合い、笑顔と元気を届けて行きたいと思います。

## 茨城県老人福祉施設協議会の目的

会員の老人福祉法上による老人福祉施設及び在宅サービス事業、介護保険法上による居宅介護支援事業及び居宅介護サービス事業の経営管理に関する研究・情報交換及び職員の資質向上のために必要な事業を展開し、老人福祉施設等の持続的発展、社会的認識の高揚を図ることによって、茨城県の老人福祉施設の向上に寄与することを目的としています。

福祉人材の  
育成

介護事業所の  
管理・運営の  
向上

高質・多様な  
サービスの提供

本会の  
組織・共同活動の  
充実

## 安心を支える介護の構築

### 一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会 概要

#### 委員会

- 経営管理委員会
- 総務・組織拡大・広報委員会
- 災害対策・BCP 委員会
- 研修・研究委員会
- 科学的介護・生産性向上委員会
- 次世代委員会
- 福利厚生委員会
- 福祉人材対策委員会

#### 協議会の事業

- ① 全国社会福祉協議会、全国老人福祉施設協議会、並びに関係官庁及び諸団体との連絡調整
- ② 茨城県社会福祉協議会との連携強化
- ③ 会員相互の連絡調整及び情報交換
- ④ 老人福祉施設等の経営及び管理運営に関する調査研究
- ⑤ 施設職員の資質向上のための研修及び福利厚生事業
- ⑥ 会員施設の利用者の自立を支援し QOL 及び CS を高める調査研究
- ⑦ 会員の慶弔に関すること
- ⑧ その他目的達成に必要な事業



茨城県老協  
マスコットキャラクター  
ローシー

2018年11月11日「介護の日」に生まれる  
介護の「介」をモチーフにしている  
頭の形は「筑波山」  
目は国道6号線（ロココク）の「6」  
体はメロン生産量日本一にちなみ「メロンパン柄」



### 一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会

〒310-0851 茨城県水戸市千波町 1918 (茨城県総合福祉会館内)

TEL : 029-241-8529/FAX : 029-241-4456

メール : info@jsibaraki.jp ホームページ : <https://www.jsibaraki.jp/>









公益社団法人

茨城県理学療法士会

Ibaraki Physical Therapy Association

茨城県理学療法士会は県内44市町村と  
協働して下記の事業を市町村単位で展開し、  
県民の健康寿命の延伸を目指します。

### ★北茨城地域自立支援センター

- 住民の自立支援・重度化予防にかかわる相談
- 住民の介護予防、フレイル・ロコモ予防の啓発・実践活動
- 保健・医療・福祉の専門職からの相談
- 北茨城市や関係機関とともに地域包括ケアシステム構築に協力

#### 【相談事例】

- 退院後の自宅で安全に生活がしたい
- 自主グループで話をして欲しい
- ケアマネジャーで担当している人のご家族の対応について相談したい
- 障がい児・者や家族からの在宅生活に関する相談をしたい



〒319-1559 茨城県北茨城市中郷町上桜井844-6  
北茨城市コミュニティケア総合センター元気ステーション内  
TEL: 0293-44-3616

紹介動画



### ★筑西地域自立支援センター

〒308-0816  
筑西市徳持 433-3 (ザ・ヒロサワ・シティ内)  
TEL: 0296-47-0294

- 相談支援事業所「ひなた」  
(事業実施委託先: 茨城県リハビリテーション専門職協会)
- 無料職業紹介事業

### ★まちの保健室・健康交通安全講座等での活動

さまざまな機会、場所で県民の皆さんのフレイル・ロコモ予防、認知機能低下予防の啓発活動を推進しています。

まちの保健室は、茨城県看護協会と協力し、茨城県保健衛生会館や水戸市内のシルバーリハビリ体操教室等に出向き、講話や体力測定、運動指導、相談などを行っています。



健康安全運転講座は、ダイハツ工業・市町村・あいおい同和損害保険と当会で協力し、体力測定、交通安全についての講座やサポカー体験・近距離モビリティ体験を開催しています。これまで鹿嶋市で開催しています。



#### 【お問い合わせ先】

公益社団法人 茨城県理学療法士会  
〒310-0034 茨城県水戸市緑町3-5-35  
(茨城県保健衛生会館内)  
TEL: 029-353-8474  
FAX: 029-353-8475  
ホームページ: <http://www.pt-ibaraki.jp/>



各種SNSもご覧下さい♪

Facebook、X、Instagram  
YouTubeチャンネル、  
LINE公式アカウント

# 介護の進化は、 深化する。



茨城県介護福祉士会  
会長 森 久紀

介護現場では、デジタル技術を活用した  
業務効率化などが進められ、  
三大介護（食事・入浴・排泄）から  
科学的介護などといったケアへと進化しています。

そこで、進化する「介護福祉士」を  
更に深化させるために必要な事とは何か？

会長の森が自ら、県内各地で熱い講演活動を行っています。

講演依頼、受付中。県内どこへでも伺います！



一般社団法人 茨城県介護福祉士会

〒310-0851 茨城県水戸市千波町 1918 番地 セキショウ・ウェルビーイング福祉会館 5 階

TEL 029-353-7244 (月・木のみ / 9 ~ 17 時)

FAX 029-353-7246

E-mail [ibaraki080ccw@topaz.ocn.ne.jp](mailto:ibaraki080ccw@topaz.ocn.ne.jp)

公式 LINE▶



HP▶





茨城県

**茨城県福祉部長寿福祉課 介護基盤整備グループ**

〒310-8555 水戸市笠原町 978-6 tel.029-301-3321



**一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会**

〒310-0851 水戸市千波町 1918 tel.029-241-8529